

# がん検診体験記

台東区では、がん検診の大切さを周知するために「がん検診を受けてよかった!」という区民の皆様の検診の体験記を募集しました。今回は実際に寄せられた検診受診者の貴重な体験記をご紹介します。

2020年6月コロナで緊急事態宣言が発令される中、

いつもよりすいているだろうと軽い気持ちで受けた乳がん検診

でした。定期的に乳がん検診はしていたので、異常なしの文字を頭に浮かべながら見た検診結果はカテゴリ3。がんの確率は5~10%初めて目にした文字でした。半信半疑で病院に予約をいれ1日かけて精密検査。結果1.3cmの乳がんステージ1でした。

主人と一緒に、先生からがんを告げられた時、まるで他人事のようにドラマのワンシーンを第三者がみている、そんな気持ちでした。その日から乳がんについて詳しく調べ、乳がんは早期発見なら5年生存率が95%以上、何より早期発見が大切ながんだと知り、検診から2か月後右胸部分切除手術を受けました。比較的小さながん細胞で、術後1か月の放射線治療と10年間のホルモンの薬を飲み、

抗がん剤治療はしなくて済みました。

乳がんの手術から1年が経過したころ、

がんの腫瘍マーカーが再び上がり再度全身の精密検査

をした所、今度は子宮に前がん状態の子宮内膜異型増殖が見られる、

いわゆる子宮体癌初期でした。乳がんの手術から一年半後、今度は子宮と卵巣の全摘手術を受けました。現在は3か月に1度の検診と1年に1回の精密検査で経過観察をしています。2年で2か所のがん手術を受けましたが、どちらも精密検査で解った初期のがんで、体力的にも精神的にも楽で術後1か月で仕事復帰しています。がんは見つかるのが怖いのではなく、そのまま放っておいて進行していくのが一番怖い、病気になってなにより家族に心配をかけてしまい、自分の体は1人のものではないということを実感しました。

今私が元気でいられるのも、2020年6月の乳がん検診で私の小さな乳がんを見つけてくださった先生方のおかげです。

50代女性

